

## 平成21年度一般職員海外実地研修

### 「最先端の危機管理体制の現状及び研究室における安全管理の現状調査」

2009年10月7日から10月17日にかけて名古屋工業大学の「一般職員海外実地研修」として、職員(安全管理室3名、研究支援チーム1名)がアメリカのジョーンズ・ホプキンス大学・カリフォルニア工科大学・UCLA を訪問した。アメリカの大学における犯罪、地震、テロ対策等の危機管理状況、及び EHS(環境・健康・安全)マネジメントシステムの取り組み、並びに喫煙状況や駐輪場などの大学整備環境の調査を研修目的として、安全環境の視察を行った。

ジョーンズ・ホプキンス大学の Campus Safety and Security の部署では、エグゼクティブディレクターほか2名のスタッフに対応していただき、キャンパス内の防犯対策や警備システムなど、アメリカの大学においてトップレベルのセキュリティを見ることができた。

また、HSE(Health, Safety& Environment)の部署では、エグゼクティブディレクターの対応により、さまざまな研究室の安全対策の様子を見学させていただくことができた。実験室の入り口ドアには、一目で分かる、危険の種類に対応した危険度を示すハザードマークが掲示され、室内には危険の種類に対応した3つの廃棄ボックスが設置されているなど大変参考となった。

カリフォルニア工科大学の EHS (Environment Health & Safety) の部署では、主に研究室における地震対策の安全管理状況について、ディレクターほか2名のスタッフに話を伺うことができた。カリフォルニア州全体で実施される地震訓練“Great Shakeout”の学内ミーティングにも出席させていただき、また研究室や廃液倉庫の視察など、貴重な体験をすることができた。

10月15日にはUCLAなどで“Great Shakeout”を実際に見学した。

この研修での見聞を踏まえ、研究室の現状の見直しや安全意識向上など、今後の業務においてさまざまな形で活かし、学生・教職員がより安全に、快適に過ごせる環境を整えていく所存である。